

2017年(平成29年)11月1日(水) 第15回 例会 (通算2767回)

国際ロータリー 第2580地区

(今月のロータリーレート:1ドル114円)

石垣ロータリークラブ週報 No. 2639

会長: 大浜 一郎 副会長: 遠藤 正夫 幹事: 宮城 早人 副幹事: 池城 貞光



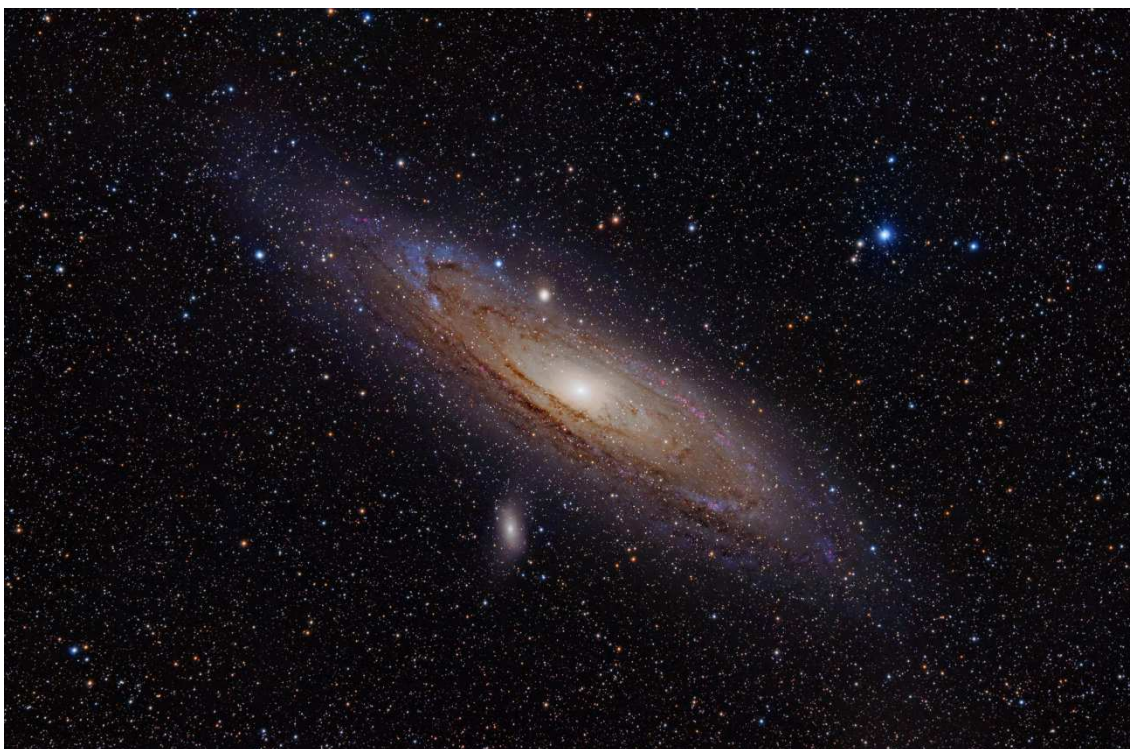
RI 会長:
イアン H. S. ライズリー

ロータリー:
変化をもたらす

地区ガバナー: 吉田 雅俊氏「感動と調和」

●クラブテーマ「絆とおもいやり」

例会日 水曜日 12:30~13:30
例会場 アートホテル石垣島(0980)83-3311
事務局 〒907-0013 石垣市浜崎町 1-1-4
TEL/FAX(0980)83-2917
<http://ishigaki-rotary.jimdo.com>
E-mail ishirotdary@ninus.ocn.ne.jp



◎アンドロメダ銀河

私たちの住んでいる天の川銀河の外にある、最も近くに位置する銀河がアンドロメダ銀河です。その距離約240万光年。アンドロメダ座の中にある、ボートとした楕円形の姿を肉眼でも見つけることができる。

10月25日(水)第14回(通算2766回)例会報告

<司会進行> 我那覇 宗広

ロータリーソング・「えんどうの花」「四つのテスト」

ソングリーダー・・・新 賢次

メイクアップ・・・宮良 薫・小林 昌道・小底 厚子

宮城 早人・今西 敦之・森田 安高

出席報告

会 員 総 数	41名
出席義務会員	40名
出 席 数	24名
欠 席 数	16名
出 席 率	60.00%
通算出席率(10月)	60.00%



本日のにこにこ

- ・前原さん卓話ありがとうございました。
勉強になりました。(大浜 一郎)
- ・先日 10/21 に八重山古典民謡コンクールの新人賞を受賞、発表会に出場してきました。(新 賢次)



BOX	¥ 2,000	(累計¥73,000)
コイン	¥ 2,727	(累計¥41,323)
合 計		¥114,596

会長挨拶：大浜 一郎



IM大会19名のご登録を頂きまして、ありがとうございました。前の席は那覇RCでした、どんどんいなくなって、意外とそんなものなのかなど、改めて思いました。貧困というのをテーマに、ロータリーとして何が出来るか、という事でしたが、取材をされた琉球新報さんの方の基調講演、添石くんとか、いろんな方がお話をされていました。こういう問題はもっと深掘して、原因を突き詰めて行かないと、ロータリーが関わることなのか、皆さんお考えがあったかと思えます。沖縄は総じて第三次産業が8割を超えるくらいの経済の構造になっている関係で、サービス産業は、記者によると付加価値が付きにくい産業であるがゆえにというような、1つの要因にしているところがありました。やはり第三次産業がこの県の特徴であるし、一次産業、二次産業に比べて非常に大きい。そういう体制の中で、付加価値が付けられない産業が肥大化しているという事を要因にすると、こういう問題は解決の糸口が見えてこない気がします。石垣も第三次産業が非常に肥大化して、それから雇用が生まれて、それにジャッジアップしようというところでの六次産業とか、いろんな問題が出てきていると思います。それをさらっと流してしまうと、物の本質がよく分からなくなるんじゃないかなど、思ったりもしたし、ロータリーで本来扱うテーマだったのかどうか、少し消化不良な感じは否めなかったなというのが事実であります。しかし、こういう問題が実際にあるという事を知るのは非常に大事な事ですので、出来る限りそういう問題にも関心を持つ、というのがロータリーとしての物の考え方、あり方かなど思ったりしますので、引き続き関心を持って、見て行くべきだろうなという感じが致しました。

また宮古島RCの会長と、地区大会の前には合同例会をしようじゃないか、という事をお話ししましたので、その日程を若干詰めて行きたいと思っております。宮古島RCも少しながら人数も増えているという話なので、先島は先島で抱える問題も一緒ですし、直面している問題もある意味、共通点があるかと思えます。そういった意味での合同例会を徐々にやってみたらどうかと思っております。ぜひその際には皆さんご参加を頂きたいと思えます。

今日は前原さんが税理士会副支部長としてのお話をいただくことでありますが、弊社も9月末の決算で11月申告でありますので、11末にかけて決算準備をしているわけですが、決算についてはP/Lだけじゃなくて、B/Sの大事さというのは、

決算を勉強すればするほど大事になってくるなという事を思っています。決算によってこの1年全て変わって来ますから、成績表なので、自分たちの個々の皆さんの会社の成績表も決算書で全て決まってしまう。こういう税務の問題に関しても毎年改正があったり、いろんな面で新しい見方、取り組み方があろうかと思えます。そういう事を織り込んだうえでの今日の話になるかと思えますが、ぜひ今日は大いに勉強させて頂きたいと思えます。

国際奉仕委員長：佐久本 達

先日のIM大会で国際奉仕委員会に参加しました。国際大会6月、日台会議が3月1日に予定しております。地区大会、日台会議、国際大会の参加意志表示ということで、名簿を各テーブルに回していますので、記入をお願いします。国際大会の参加人数を国際奉仕委員会に報告することになっていきますので、ぜひご参加よろしくお願います。日台会議の旅行日程が2/28~3/3、3泊4日で組んでいます。金額は概算で10万円程度。国際大会は見積もりを取っていますが、早期登録が12/15、登録料375ドル、マイロータリーからの登録になります。

地区米山奨学委員：大浜 勇人

2017-18年度の米山豆辞典、毎年1回交付されますが、米山の事がぎっしり詰まっています。ぜひご一読下さい。特に10・11ページ、寄付に関する表彰制度ということで、少額ですと3万円から特別寄付がありますので、ぜひご協力いただければと思います。分区毎に学生の人数を決める際に、去年までは寄付のトータル額で多い順に割り当てていましたが、今年から寄付した人数で割り当てることに変更になりましたので、少額でもいいので、寄付して頂ければより多く沖縄に学生が割り当てられると思います。11ページ目に寄付に対する税制優遇措置の事が書かれていますので、確定申告の際はご利用頂ければと思います。

会員卓話：前原 博一氏

沖縄税理士会石垣支部副部長



テーマ「税理士会の活動」

本日は沖縄税理士会の石垣支部の活動について報告します。私たち税理士は「使命」があります。税理士法第1条「税理士は税務に関する専門家として独立した公正な立場において、申告納税制度の理念にそって、納税義務者の信頼に応え、租税

に関する法令に規定された納税義務の適正な実現を図ることを使命とする。」この使命条項によって、私たちは日々活動しております。初めてこの条文を見た時に、こんな重たい仕事できるのかなと思うぐらい、第1条は私の中では重い条文でした。この中で税の専門家として独立した、通常公認会計士とか士業の先生方いらっしゃるんですけど、税理士は独立したという言葉で全て集約されています。税務当局の立場でもなく、お客様の立場でもなく、あくまでも独立して業務を遂行して下さい。という事で、この独立したという言葉が一番この第1条で重要な言葉になります。

日々の仕事としては通常、税理士は税務代理、税務書類作成を主にやっています。もちろん確定申告書など、税務署に提出する書類を作成したり、税務調査の立ち合い、税務署の更正・決定というのは税務署からクレームが来た場合、申し立てがある場合の申し立て等を主にやっています。税務代理、税務書類の作成が主な日常業務なんですけど、今、税金の計算というよりは、会計の適正な記帳が重要になっています。これまでは会計帳簿を作るというのは、最終的に税金計算をするためのというのが主な役割でした。しかしこれからの時代、会計業務をしっかりやりましょう、というふうに変わって来ています。その中で、税理士業務に付随しての財務処理の作成であったり、会計帳簿の記帳代行、その他財務に関する業務という形で、会計業務というのでも重要な部分になっています。その他、各団体や法人の監査役であったり監事などの役員に就任して、という活動もやっています。

これから税理士としてやっていく中で、税金計算だけでは、おそらく仕事としてはなくなるだろうと、私は考えています。というのは、今ITが発達して、これまでは帳簿も手書きの時代から、かなり進化したソフトが開発されていますので、税金計算は、自ずと自動的に報告されるようになりますので、その中で、会計の業務を主にやる形の流れに変わって来ると思います。税理士業務の中には社会貢献という業務もあります。主に小学校、中学校、高校生の児童たちに税金とは何か、どういった税金があって、どういった使われ方をするというのを、かみ砕いて行う租税教育というのがあります。これまでは重要視されていませんでしたが、税理士会では租税教育にかなり力を入れています。租税教育をするためのセミナーに行ったり、子ども達に税金を仕組みであったり、重要な役割を教えているという租税教育等もやっています。

その他、適正な税理支援といたしまして、毎年2月23日、税理士記念日が儲けられています。また来月ですが、税を考える週間という日があります。そういった日に各地で無料相談を行ったり、各セミナー講師をしたり、税理士として幅広く活動を

やっています。

税理士業務はもちろん税の申告が主なんですけど、やはり繁忙期がありまして、12月から年末調整が始まって、年明けて1月から3月に個人の確定申告、そして3月決算法人の申告、6月決算の申告、年を明けると、約半年ぐらいは繁忙期の時期を迎えますが、7月8月になると社会貢献という形で、このような業務をやっています。

日本税理士連合会では今、個人ではなくて、中小企業支援に力を入れています。日本の90%以上が中小企業になりますので、やはり中小企業が元氣にならないと、日本経済もだめになるという考えは、もちろん納得する所なんですけど、その中で中小企業支援をしっかり税理士としてやってください。という事で4本柱で、基本的には支援をしていきます。①財務支援、②経営支援、③金融支援、④税制支援になっています。こちらを見た時に税務支援というのは最後にあるわけです。税理士として税金を計算する使命にも関わらず、この業務の重要度としては一番下に来ているわけです。一番上は財務支援、中小企業の会計の質の向上に向けて支援します。という形で、会社が日々記帳している会計の質を上げる事を支援の一番に掲げています。決算書の中で総利益だったり、経常利益であったり、それぞれの役割の区分があります。その区分を正しく示せるような決算書を作るために、会計の質を向上させて下さいという形で、会計の質の支援を一番上に持って来ています。会計の支援をすることによって、正しい適正な決算書に基づいて、経営支援をしていきましょう。この成績表を基に提言していきますので、いくら経営支援を頑張ったとしても、そのもとになる書類が質の高い決算書でなければ、結局正しい支援はできないわけです。ですので、順番的には会計の質を向上させて、それに基づいた決算書で経営支援、さらに事業拡大していく中で、やはり金融支援は大切な支援になってきます。正しい会計に基づいて、正しい決算書を作り、さらにそれに基づいて経営改善、経営の環境改善を支援します。また質に応じて金融（資金）調達の支援を行います。この3つが主な活動になりますが、最後に中小企業の支援税制の周知を活用します。という形で、最後に税金計算とかはかけてやられていますので、税金は税金で払いますけど、その中で決算書の重要性というのは、注目されています。

目指すところは適正な会計（財務情報）を活用した経営の実現というのが、私たちの支援する中で、最終的な目標になります。正しい決算書▶会社の実態把握▶実効性のある経営計画という形で、順を追ってやりますが、もちろん正しい決算書は毎年決算きますので、決算書を作成し、会社の実態を把握しましょう、さらに実効性のある経

営計画、こちらがポイントでして、計画というのはあくまでも未来会計です。最大5年計画を作りますが、その5年計画を作る基になる資料としては、正しい決算書から導く。正しい決算書を作って、実態を把握して、さらに計画をしていきましょう。その計画にあたってはよくPDCAという言葉、聞いたことあると思いますが、P(Plan)プランを立てて、D(Do)行動して、C(Check)チェックして、チェックしたものを改善(Action)、このPDCAをしっかりと計画に則って回せば、かなり計画した数字に近づけるものになりますので、この流れ、方法はかなり重要な作業になります。

今回せっかくなので、色々な情報の中で、分析ツールというのがあります。今インターネットで各金融庁とか中小企業庁とかホームページを開けると、分析ツールが無料で使えます。中小企業の会計ツールの中にキャッシュフロー計算書を作成しましょうという所があります。キャッシュフロー計算書というのは上場企業とか大企業はキャッシュフロー計算書を作る義務がありますので、作っていますが、中小企業は作っていません。御社の貸借対照表と損益計算書の数値を、埋め込んで頂くと自動計算されて、キャッシュフロー計算書が出来上がります。キャッシュフロー計算書というのは、簡単に言うとお金が1年間に入ってきた金額、そして出て行った金額を表す計算書です。損益計算書は、商品を引き渡した段階で収益費用を計上された結果の利益になりますので、お金の有無に関係なく利益が計上されることとなります。そうすると利益はあるのにお金がないという状態が経営判断を誤らせるわけです。キャッシュフロー計算書は、お金が入ってきた、出て行ったという決算書になりますので、お金を把握できる決算書なんです。

また金融庁から発行されている機関誌、「知って納得」という冊子がホームページにあります。こちらは金融機関の目線で、企業をどう見ているかという内容のものです。これまでは金融機関は過去の決算書であったり、担保であったり、そういった形で企業に融資をするかしないかを決めていましたが、これまでとは違って企業の事業性評価という新しい考え方がでてきます。それは過去の実績にとらわれず、これからの企業の取引先や将来性を見て、融資をするという考え方に変ってきていますので、そういう情報が知って納得するというホームページに出ています。

最後に経営自己診断システムというのがあります。これも過去の決算書を打ち込むと、企業の判定が出てきます。安全ですよ、危険ですよという形で、細かい計算式は出てきますが、最後のコメントでこの数値の分析を簡単にしてくれますので、こちらは過去の終わった決算書2年分の数値を入

れ込んでみるのもいいのかなと思います。以前まではこういったシステムは高いソフトだったんですが、今はこういったシステムがインターネットの中で、無料で使えますので、使わない手はないのかなと思います。ぜひ活用して頂きたいと思います。

例会風景



○MyRotaryへの登録のお願い○

会員向けの情報やツールを利用できるので、会員の皆様のアカウント登録をお願いします。

《《<https://my.rotary.org>》》